

第2回 新しい日田の森林・林業・木材産業振興ビジョン策定委員会

日時：平成26年10月2日（木）14：00～16：00

場所：日田市役所7階 中会議室

1. 開会
2. 委員長挨拶
3. 議事
 - (1) ビジョン策定のこれまでの経緯
 - (2) 新しい日田の森林・林業・木材産業振興ビジョン骨子（案）説明
 - (3) 協議事項
 - ①骨子（案）の構成、体系等
 - ②重点施策

協議

城戸委員長

骨子案で、気がついた点、認識が間違えている、あるいは漏れている視点などを中心にご意見をいただきたい。

委員

資料 21 ページ、重点施策③森林経営・施業の集約化の解決の方向性の最後の項目に、「小規模山林等の公有化の要請について検討する」とあるが、市有林として引き取るということなのか。

事務局

これは部会で、経営が成り立たないような林分については、最終的に国に買い上げてもらうのが良いのではないかという意見がでたので、ここで検討課題として挙げている。市ではなく国が買い取ることを想定しているが、具体的な形があるものではない。

城戸委員長

市が検討するような段階ではないので、せめて「調査・研究する」と記載した方が良い。ただし、可能性はゼロではないので、アンテナを張る必要はある。

委員

3 ページ、策定の目的の箇所だが、一昨年九州北部豪雨の災害を受けたことが今回の目的の一つとなっている。森林のあり方について、災害を起こさない森林づくり、保水力のある森林づくりをいかに実行していくかということ、目的の中に記載すべきだ。骨子案全体を通じて、森林の機能を「多面的機能」と表しているが「公益的機能」に変えるべきだ。公益的機能をこれからどうしていくのか、策定の目的の中で述べるべき。14 ページの現状と課題 (2) (イ)④で、植生配置 (天然林化) の見直しと記載しているが、言葉がおかしい。広葉樹林と人工林の適正配置とすべき。また、p19 の「災害に強い森林づくり」の「生産林不適地の環境林への誘導」については、「広葉樹を介した環境林への誘導」とすべきだろう。尾根筋、急傾斜地、溪流防災帯は広葉樹への配置転換とした方がよい。

委員

環境林の線引きは難しい。森林を林業としてマネジメントする部分と、環境林として守る部分、その中間帯をきちんと区分して、林業の必要なところは道を整備し、それについては補助金を投入する。天然林に戻すところは、最初の再生林の部分に何らかの補助を出す。そのような事が必要。どちら側からアプローチするかという問題はある。現状においては、山側からは、道を造り機械化ができる範囲と、それ以外の範囲という区分になるのではないか。

委員

県では、環境林と生産林の区分けに着手している。以前実施した適地適木調査をもとに GIS を使ってマクロ的に区分するものである。年度内には公表できる見込みである。先ほど公益的機能への記載変更という意見が出たが、公益的機能に木材生産機能を加えたものが多面的機能である。公益的機能と記載するのであれば、並列して木材生産機能をきちんと記載する必要がある。

城戸委員長

今回は行政が作成するビジョンなので、国、県が使う用語に則った記載が良いだろう。そこは、事務局で確認していただきたい。

事務局

私どもも、公益的機能に木材生産機能を加えたものが多面的機能と理解しているので、多面的機能とした。ビジョンでは多面的機能を採用したい。山作りの面については、県の次世代の大分森林づくりビジョンを踏まえた上で、日田市でさらに記載すべきことについて意見をいただければと思う。

委員

私は人工林を否定しているわけではなく、人工林を守るために広葉樹が必要と思っている。そのため、20 ページの①災害に強い森林づくりの課題に記載している、「痩せ地など、経済的な観点から木材生産に適さない土地」を広葉樹へ転換するという考え方はして欲しくない。もともと広葉樹林は、戦後の拡大造林の時期に本来残さないといけない箇所まで伐採されたという経緯がある。林業者は広葉樹を畑地の雑草と同じ感覚として扱っている。これから、オーバーランで伐採された広葉樹をどのように戻していくのか、人工林をどのように守っていくのかということビジョンの中できちんと記載して欲しい。

城戸委員長

要するに、生産に適さないから広葉樹を植えるという発想ではなく、災害から守るために広葉樹が必要だという意見だと思う。多面的に見た上で、広葉樹の必要性をとるとのことだ。

委員

皆伐を推奨した結果、木材価格が下がるのか上がるのかが問題だ。骨子の内容は、丸太価格に無頓着だ。丸太価格が安くなっては困る。皆伐後の再造林についても記載されている。支援については歓迎するが、無理だろうと考える。相反する内容が記載されている。丸太価格を上げる方向に持っていかないと林業は良くならない。そこを考慮して欲しい。

委員

木材価格は需要と供給のバランスで決まる。原木価格の低下の中で、育林の低コスト化ということが記載されていると思う。価格を意識しているとは思いますが、小規模所有者が多数を占める中で、実際に生産調整をどのように行うのか。製材の需要が高まれば、原木の供給圧力は高まる。需要が減ると、原木過剰になる。日田市の国有林では、毎年 2,000m³ 弱間伐材を生産している。日田市の素材生産量全体の約 1%程度。国有林との調整と記載してあったが具体的なイメージを教えて欲しい。ストックヤードという記載もあったが、日田市では原木市場がその機能を果たしているのではないか。ストックヤードの具体イメージも知りたい。

事務局

日田市の年齢構成は、全国よりも一段階高い。そのため主伐は必要だと考え、このような記載とした。ヒアリングの中で 14 ページの課題と現状の所に記載しているが、市内での原木自給率のことが話題になった。他県に大型製材工場が設置されたり、バイオマス発電の稼働も控えているので、他地域での原木調達が厳しくなる可能性もゼロではない。素材生

産者の確保は必要になるが、そこをクリアできるのであれば、市内での素材生産量を上げていくことを考えられないかと思い、提案した。ストックヤードについては、現段階で詳細なイメージはないが、需給調整に関して、どこかにその機能が重要だという認識で記載した。

城戸委員長

原木価格の問題は難しい。生産調整だけで解決できるというわけではない。市内で付加価値のある製品を生産できるようになれば、価格は安定するのではないか。単なる原材料基地にならないようにというのが、ビジョンの1つの方向性だと思う。今の時点で、生産調整の具体策を描くのは難しいので、一旦宿題としたい。もう一つは、消費者側のマーケットへの対応をどうするのかを考える必要がある。その意味では、完成品、半製品、チップなど様々なストックヤードが考えられる。前回の構想では、木材総合流通基地が描かれていた。日本中から木材を揃えるという構想だった。構想には理想・夢と現実性の両面が必要で、そのバランスが重要。今回は、どちらの意見もいただきたい。

委員

ビジョンとは、日田市の林業・木材産業はこうあるべきだという姿を描くものだと思う。林業・木材産業は幅が広く、全体を網羅すべきなのは理解するが、最終的には産業・出口の部分に絞るべきではないか。あまり、幅を広げると、よくある森林ビジョンのように、代わり映えのしないものなるのではないかと懸念する。

城戸委員長

行政のビジョンとは、どうしても幕の内弁当にならざるを得ない部分があるが、どこかに特徴を出す必要がある。今回の場合は、今の意見のように産業に軸を置いた方が良いだろう。ビジョンの基本理念は「クラスター化」となっているので、産業に軸を置いたものとなっていると思う。今回、重点施策が一つの特徴になっていると思う。そのため、重点施策の項目、内容について議論を深めていただくと日田としての特徴が出てくるのではないかと思う。

委員

林業・木材産業に様々な課題があるなかで、その中でも「売れない」ということが、全ての課題につながっていると思う。そのため、販売戦略を重視し、具体的な策を考えていくべきだろう。目的のところで、林業・木材産業を基幹産業と定義している。経済の基盤にならないといけませんが、現実では全くなっていない。経済基盤となり、地域への波及効果も大きくなれば、自ずと林業・木材産業に対する市民の意識も変わってくるだろう。まず、川下に踏み込み、経済基盤を強化しなければならない。そのためには、重点課題の販売強

化の部分に厚みをもたせる必要がある。

委員

20 ページの②主伐の推進の箇所についてだが、現在高齢級化が課題になっている。太くな
ったままの立木が増えていくので危ない状況になる。その状況は打破しなければいけない。
高齢林対策として、主伐・再造林を進める方向性を打ち出す必要があるだろう。
強い健康な森林づくりの方向性をきちんと示さなければ市民や流域の人たちにアピールす
ると言ってもアピールできない。

城戸委員長

どこが主体になるかが問題になるが、ビジネスは民間が実施し、保守的なところは国がや
ることになる。日田としてやれることは何かと言えば、販売など需要拡大の部分だろう。
その上で、色々考えたけれども、民間や市レベルの話ではないということになれば、そ
れは、国交省なり国の話しになるだろう。せつかくなので、委員の皆様には、我々ででき
ることは何かを議論いただければと思う。自分達ではできないけれど、行政が少し背中を
押してくれれば良いことなどは結構あると思う。それが見つかれば、ビジョンになってい
くと思う。

委員

高齢級については、日田だけでなく全国的な課題だ。高齢級となれば径級が太くなるが、
日田で大径木をしっかりやっていくという方がいらっしゃるのか。

委員

環境と経済のどちらを優先するのかで、ビジョンの方向性は大きく異なると思う。日田は
林業・木材産業に携わる多様多種の民間事業者が存在する。その地域で、全体的なビジョ
ンをそれら事業者押しつけていくのは難しい。前回のビジョンの時代と比較して、日田
市の置かれている立場は小さくなってきているのではないか。かつての流通分野は良かった。
今は、港と大工場を持っている地域が強く、そこにどれだけ近いかが流通
のポイントとなっている。日田はそこに合致しない。海外の輸出にしても港がないと大き
な取引はできない。

委員

20 年前、スギの合板は全く考えられないことだった。ビジネスにつなげるためにはイノベ
ーションは重要だ。

委員

林業の問題だけ独立しているわけではない。日田市全体の大きな問題の中での林業問題である。かつて、経済が右肩上がりの時代の合併と異なり、今回の市町村合併で、旧郡部は過疎化が進み、旧市ではマンションが増えている。日田市の世帯数は変わらないが人口は減っている。通勤に便利ということで上流域から中心地に出てくる人も多い。そのような、日田市自体の問題と林業の問題をリンクさせていく必要がある。商工会議所などとの連携も重要だ。先ほど、骨子案の内容を「幕の内弁当」だという話があったが、和洋折衷の「鉢盛り」状態ではないか。業界が違えば受け止め方も違う。関係者ヒアリングに基づいた内容というのは理解できるが、それぞれの関係者に配慮し過ぎた記述になると、まとまるものもまとまらなくなる。ビジョンは、日田材を売るためのポジティブな「攻め」の戦略と、守るための戦略をきちんと分けるべきだ。活かすには「利する」という意味がある。林業試験場、林工を活かしていくことが大切だ。ビジョンは小さいことを記述するのではなく、夢のあることを記述するべきだ。

城戸委員長

今の意見の通り、「攻め」と「守り」のメリハリはつける必要があるだろう。事務局は認識していると思うが、特定の産業の中だけで固まらないよう、建築、住宅などの話しをもう少し膨らませた木材産業として、絵姿を打ち出していく工夫が必要だ。小さいことでも具体的に進められることは記載した方が良い。部会では若手の人がやる気のある発言をされているので、ぜひそれを後押しできるような施策にしてもらいたい。

委員

26 ページの「森林を知る」の箇所、子供達にいかに関西の森林・林業を知ってもらうかという環境教育が重要になる。日田で子供達が日田の森のことを知らないまま育っていくことのないように、項目に入れて欲しい。これまで、多くの子供を森に連れて行ったが、日田に住んでいながら森に入らなかった子供が大勢いた。

委員

あえて記載していないのかどうか分からないが、日田の特徴である原木市場のことと、5～10年後の木材流通がどのような形になるのか、どれが日田に一番適した形体であるかの議論は必要だ。高付加価値化について、乾燥材への取り組みは良いが、新しいものとして集成材への取り組みなども視野に入れて議論する必要があるのではないかと。また、担い手の育成については、建築や家具のデザインに携わる人達まで視野に入れた担い手ということまで広げてもらいたい。現在の内容では、製材工場までで止まっている感じがする。公共建築物などで国産材を使ってもらうためには建築士の存在が欠かせない。需要者側からの視点を入れる必要がある。

城戸委員長

流通体制の再編は避けて通れない。ビジョンにその内容を書けなくても、時代の変遷にはきちんと対応していくことや、ICT への対応などは記述していく必要はあるだろう。家具の話は極めて重要だと感じている。量的には多くないかもしれないが、円安が進めば状況は変わり、日田の強みの1つに成り得る。人材育成の箇所には、家具職人の育成なども入れていくことが重要だろう。林業咸宜園は、日田だけでなく全国から人が集まることのできるのではないかと期待できるものだ。教育的なものは、日田以外の人にも開けて、場合によって日田に定着するようなイメージで作り込んでもらいたい。家具については、ロングテール理論で日田家具を捉えていけば勝算がある。

委員

材積では少ないかもしれないが、当社のスギの家具は 80 万円/m³で販売している計算になる。スギ材を使った高付加価値製品で、高人気なものになっている。家具は、日田の非常に身近なもので生産できる分野なので、起業がしやすい。原料は近くに豊富にあり、機械もちょっとしたものでできるし、近くに行けば製材所も多い。新しいものづくりをつくるお手伝いが、我々としてできれば良いと思っている。家具に関しては、日田が港に面していないと行っても、2 時間程度の距離なので海外輸出は十分な勝算がある。

委員

棺桶をスギでつくってはどうかという話があった。家具と異なり 1 回きりの利用なので、需要が見込める。スギに囲まれて最後を向かえるというのも良いと思う。

城戸委員長

有田焼では、骨壺のビジネスもあるので、棺桶もあるかもしれない。

委員

九州でも、大川あたりで棺桶を作っているところはある。ヒノキの棺桶を作っているところもある。当社で調査したことがあるが、流通に乗せるとなると掛け率が非常に安く、躊躇してしまったという事実がある。

委員

自分の育てた木が最終消費者に届くとところを見届けたい。最終商品を見ることができるという点では、家具は強いと思う。我々は攻めの林業で行きたいと思っている。先ほど皆伐の話がでたが、スギを植えるのが良いかどうか分からない。骨子案を見ると、現在の丸太価格、獣害の発生など、厳しい現状下に対応できるシステムを、現場側も作っていけ

ということだと捉えている。道路を作り、経済林・非経済林の区分をきちんとして、いかに回していける森をつくるかということだと思う。また、最近では福岡県の方からも伐採の要請がある。それに対応できるだけの人材を育成・確保していくことも必要だ。今後、自社の材を使う際は、日田の家具などとも連携していきたいと思っている。

委員

建築士会では、具体的な「日田の家」を考えている。図面を引き、積算などを行っている。日田らしい家考えると、無垢材などを使った家を単に作って、お客を呼んだ展示会を行うだけでなく、観光や森、製材所、原木市場を見てもらうというツアーを組んで、福岡や大分市から人を呼んで、日田に来てもらうことが大切だと思う。市営住宅は、第3期工事に入っている。市営住宅は、内部を改装しにくい構造で作られている。コンクリートの壁式なので、中の壁が簡単にとれず、リノベーションが容易にできない。今回のようなビジョン策定において、行政側が林業関係者しか出席してないのは課題だと思う。基幹産業を全体で考えて欲しい。市役所の中でも部会を作って是非議論してもらいたい。他の課との連携が図れるようになると良いと思う。

委員

ビジョンを策定する際は、課を横断した方が新鮮なアイデアが生まれる。今、あるものを目新しく利用できる可能性がある。そのため、今の意見には賛成である。業界の連携も重要だが、行政内での連携も重要だ。

城戸委員長

もし可能であれば、次の委員会の前までに庁内で関係部署に集まってもらい、場合によっては次の素案について、フリーで議論するような場所を設けるのはどうか。その際は、委員長と副委員長が出席するようにはどうか。観光については、着地観光の可能性、産業観光も可能だ。柔軟に考え、トピックなどに入れてもらいたい。

委員

需要、出口ありきで、九州産材として売り込む努力をすべき。他の産業にも勝てるような、山主、製材所、建築士など様々な関係者で、日田らしい、新しい光がさすようなビジョンを作って欲しいと思う。

委員

原木の価格があまりにも不安定で林業がうまくいかなくなっている。この6年間で日田のすぎ単価は6,000～13,000円/m³と大きく変動している。日田だけでなく、全国規模で変動する。私どもは日田以外でも原木の集荷をしている。よその地区で皆伐をし、できる限り植えるようお願いしているが、日田以外では、再造林できていないところが多い。そのよ

うな状況の中、他地域の資源は枯渇するのではないかと思う。ビジョンの方針通り、日田は植林・育林を実施して、30年後、林業、木材産業が産業として残っているということであれば、非常に夢があるのではないかと感じている。

委員

基本理念では、クラスター化のみが記載されているので少々わかりにくい部分がある。森林、林業、木材産業それぞれの目指す姿を示した上で、それを実現する1つの方法としてクラスター化があるという流れの方が理解しやすいのではないか。それを実現するものとして、次の基本方針、施策体系があると思う。日田の特徴・強みを生かしたビジョン作りが重要だ。骨子の中で興味が沸いたのは、重点施策の②日田材の需要拡大・販売体制の強化における、日田スギポータルサイトの開設や、デザイン・製品開発・流通（商社）機能の強化や、③木材製品のイノベーション促進での様々な連携、③担い手確保・育成の林業咸宜園などである。このような新しい夢のあることをしっかり描いていけば、面白いビジョンになるのではないか。

城戸委員長

再クラスター化は、ビジネス的にも横のつながりを作るためにも良いものだと思うが、理念となると高尚な部分があった方がわかりやすいかもしれない。また、10ページの施策体系、施策方向と重点施策で同じ言葉が使われており、かつ重点施策では体系と方向が混ざってレベルが合っていない。その点はもう一度見直して、工夫し直して欲しい。

委員

ビジョンの内容については、ある程度自分の意見は網羅されていると思う。ブランド化については、乾燥なども含まれる。日田では乾燥が重要だ。日田は、柱、桁、小割など全ての部材が揃っている。それらの乾燥ができるということが、大きな意味でブランド化になるのではないか。大型製材工場はロットが揃っていることが利点だが、そこに打ち勝つためには、日田で全てのものが揃うということが強みになるのではないか。

城戸委員長

以上で議事を終了したい。長時間ありがとうございました。